

「第４回アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラム」
開会式における佐藤外務副大臣スピーチ（和訳）
（２０１７年１１月１３日（月）於：セネガル・ダカール）

サル・セネガル共和国大統領、
カガメ・ルワンダ共和国大統領、
ケイタ・マリ共和国大統領、
パイミ・パダケ・チャド共和国首相
ムーサ・ファキ・アフリカ連合委員長、
パルリ・フランス軍事大臣、
御列席の皆様、

第４回アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラムに参加でき、大変光栄です。この重要な年次会合の開催に向けた、サル大統領と皆様のご尽力に感謝申し上げます。

多くの人、企業、モノ、資金が国境を越えて移動する今日、アフリカの平和と安全に誰もが無関心ではられません。私が遠く１万３千キロ離れた東京からダカールを訪れたのも、日本がこのフォーラムに２０１４年の第１回目から貢献してきたのも、まさにそのためです。

アフリカ地域で武力紛争やテロ行為が発生しています。ブルキナファソとソマリアでの最近のテロ行為に関し、犠牲になった方々に心からお悔やみを申し上げます。

御列席の皆様、

アフリカの平和と安定に関する日本の取組をご紹介する前に、私自身について若干申し上げさせて下さい。私は１０年前に政治家になる前、ゴラン高原のＵＮＤＯＦでは輸送隊の隊長として、また、イラク南部のサマーワでは復興業務支援隊の隊長として派遣された経験があります。平和構築の実務者としてのこうした経験を通じて、現場で平和を根付かせるために真に必要なことは何であるかということ学びました。

昨年ケニアで開催された第６回アフリカ開発会議（ＴＩＣＡＤⅥ）で、各国首脳は「繁栄の共有のための社会安定化の促進」を優先分野の一つに掲げました。紛争やテロ、暴力的過激主義を生まない人間の安全保障が確保された強靱な社会や制度を構築することが求められています。

日本は、南スーダンでは、本年5月まで5年以上にわたりUNMISSへの施設部隊派遣を行いました。また、ソマリア沖・アデン湾では、海賊対処行動のため、2009年以来、海上自衛隊の艦艇及び航空機を派遣しています。

サヘル地域の社会安定化に貢献すべく、日本は2013年以降、約14億ドルの支援を実施してきました。また、アフリカ各国のPKO訓練センターに対する講師派遣や総額4千万ドル以上の資金支援を行い、平和構築分野の人材育成にも貢献しています。

こうした取組を通じて日本は、アジェンダ2063が掲げる「平和で安定したアフリカ」の実現を後押しします。2019年に横浜で開催されるTICAD7も見据え、引き続き貢献していきます。

御列席の皆様、

国連安保理において、アフリカは常任理事国の議席を持っていないにもかかわらず、議題の半分以上がアフリカに関係しています。日本は、アジェンダ2063が明記する2023年までのアフリカの常任理事国入りへの支持を表明しています。この「歴史的不正義」を是正する必要があります。

アジアに目を向けると、北朝鮮は、核・ミサイル開発を執拗に追求し、国際社会の平和と安全にとってこれまでにない重大かつ差し迫った脅威となっています。関連安保理決議の完全な履行を始め、北朝鮮に対する圧力を最大限まで高めていく必要があります。

今年のフォーラムのテーマは「統合的解決」であり、移民問題や気候変動、人道危機への対処、サイバーセキュリティといった幅広いグローバルイシューへの対応が議題となっています。アフリカの安全保障に対する多角的で人間中心のアプローチは、日本が重視する一人ひとりの保護とエンパワーメントに着目する「人間の安全保障」のアプローチと軌を一にするものであります。

最後に、ダカールフォーラムを通じて、アフリカの平和と安全に対する協力が強化されることを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。